



令和6年度
十勝教育研究所

協力員研究



十勝教育研究所

担当所員

靱山
白澤

修斗
大輔



十勝教育研究所 協力員研究

I 研究の概要

II 授業実践の紹介

III 研究の成果と課題

IV 実態交流



1 研究主題

他者を尊重し、 責任をもって行動する子どもを育む研究

～日常モラルを生かした学習内容と
一人一人が意思決定する学習展開の工夫を通して～

(2か年継続研究 1年次)

2 主題設定の理由 [今日的な課題 学習指導要領等から]

学習の基盤となる資質・能力の育成

言語能力



問題発見・
解決能力

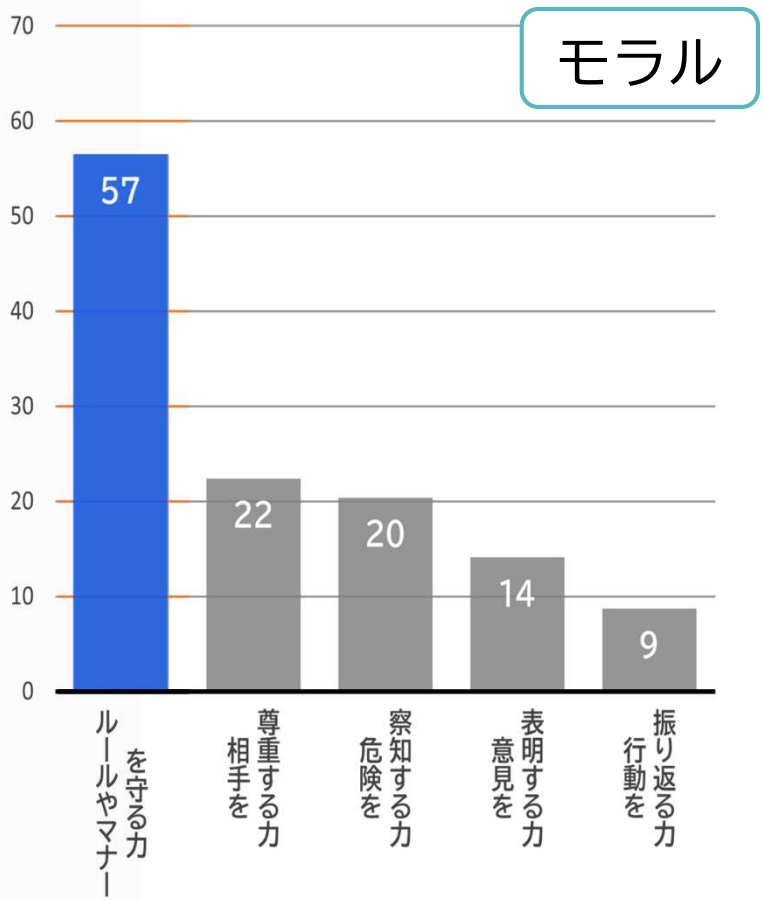
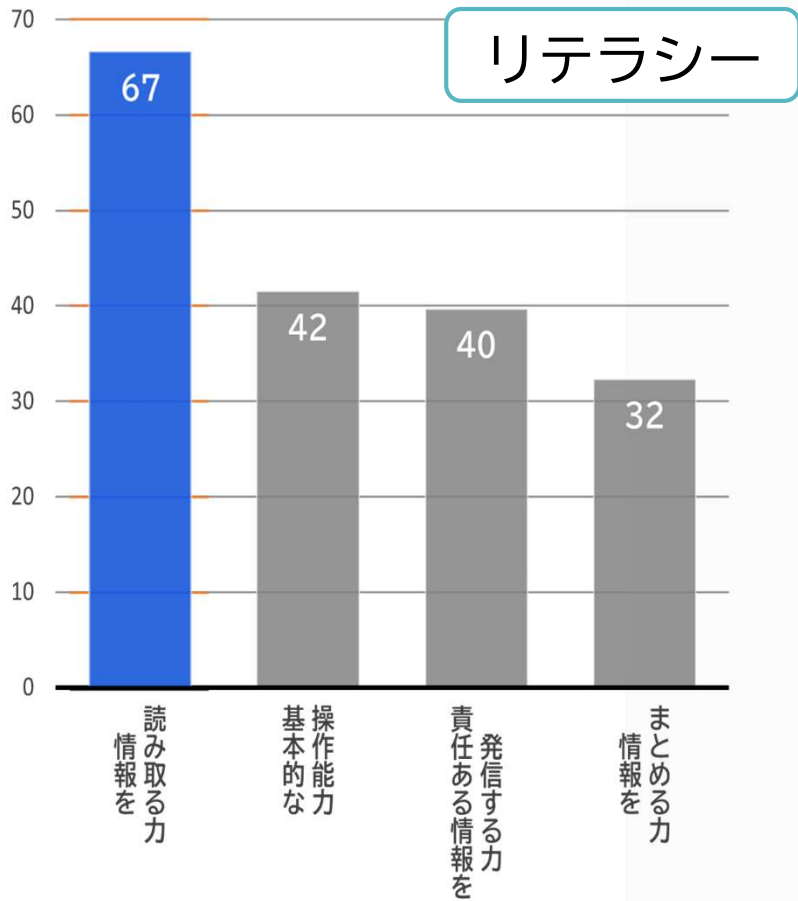


情報活用能力
(情報モラルを含む。)



2 主題設定の理由

広報誌「数字で見る十勝の教育」アンケートより
「デジタル化が急速に進む中で、どのような力をつけることが必要と感じているか」



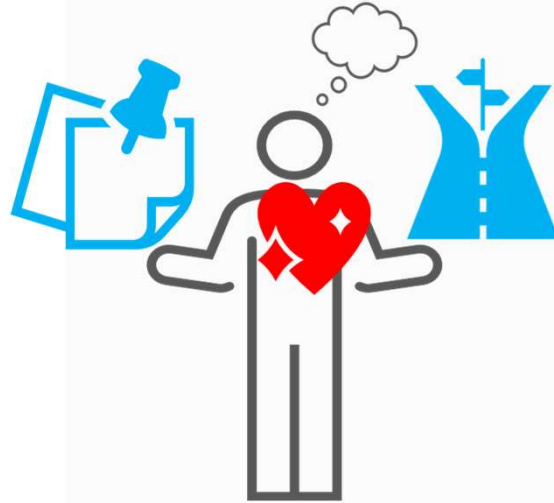
2 主題設定の理由

デジタル世界の特徴

画面の向こうにも人



文字でのやり取り



他者の存在を意識
(日常のモラル)
→ 他者を尊重する態度

情報の整理、分析、判断
→ 責任をもった行動



3 研究の仮説

研究の仮説

特別活動において、日常モラルを生かした学習内容と
一人一人が意思決定する学習展開の工夫を通して、
他者を尊重し、責任をもって行動する子どもが育まれるであろう。

3 研究1年次の構造図

他者を尊重し、責任をもって行動する子ども

研究内容1
日常モラルを生かした
学習内容の工夫

- ① 事前アンケートの活用
- ② 情報技術の仕組みの理解

情報活用能力
(情報モラルを含む。)

研究内容2
一人一人が意思決定する
学習展開の工夫

- ① 行動の選択肢の議論
- ② 前向きな対処法の追求

1 研究の視点 (1) 本研究における子ども像

 他者を尊重し、

多様な他者を理解

相手の意見を聴く

考えを正確に伝える



他者を尊重し、
責任をもって
行動する子ども

 責任をもって行動する

自らを律する

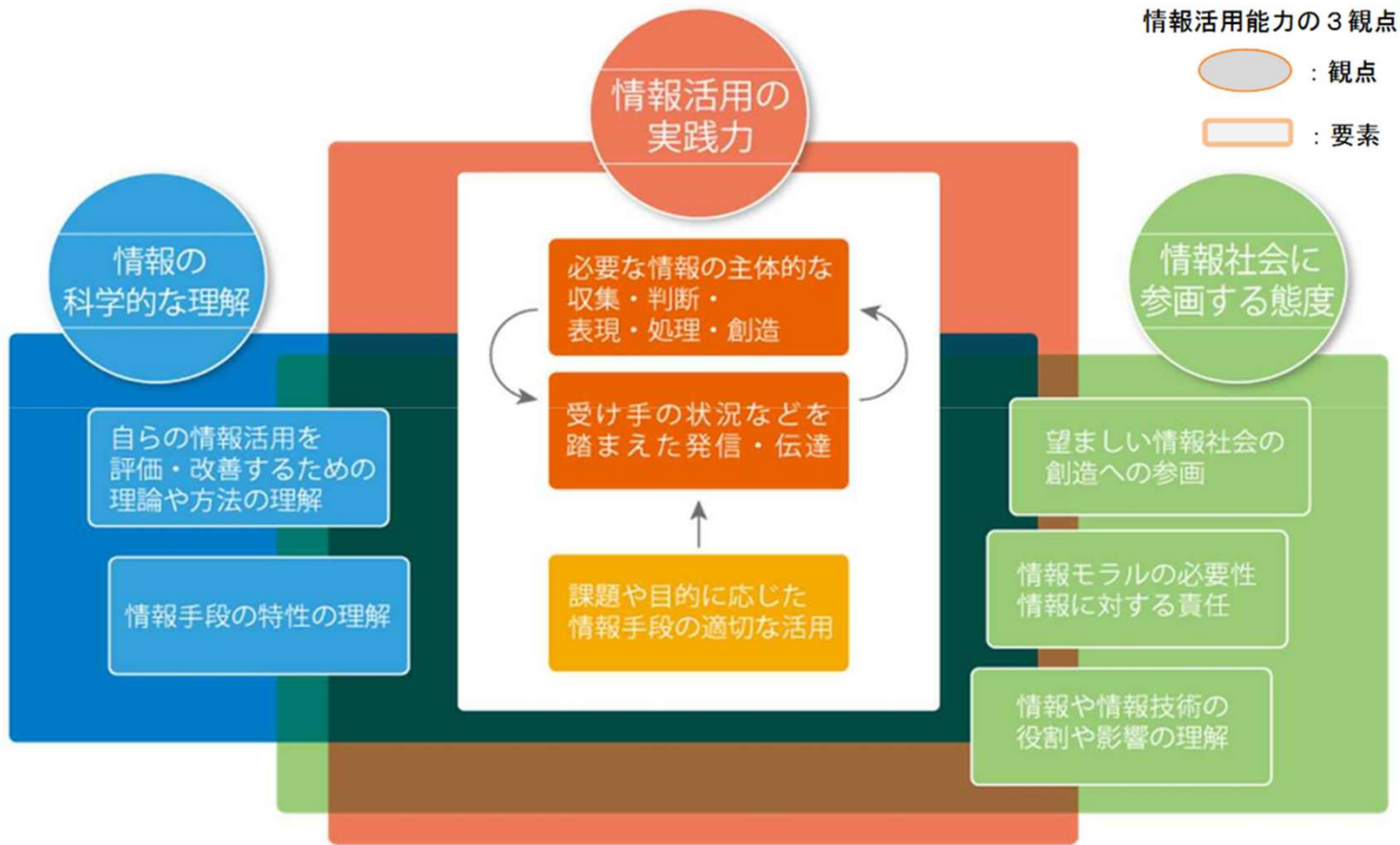
振り返る能力を身に付ける

よりよい行動を考えることができる

1 研究の視点

(2) 情報活用能力

情報及び情報手段を主体的に選択し、活用していくための個人の基礎的資質



1 研究の視点 (3) 情報モラル教育

情報モラルとは	情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度			であり、
具体的には	他者への影響を考え、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつこと	犯罪被害を含む危険の回避など情報を正しく安全に利用できること	コンピュータなどの情報機器の使用による健康との関わりを理解すること	などである。
このため、	情報発信による他人や社会への影響について考えさせる学習活動 ネットワーク上のルールやマナーを守ることを意味について考えさせる学習活動 情報には自他の権利があることを考えさせる学習活動 情報には誤ったものや危険なものがあることを考えさせる学習活動 健康を害するような行動について考えさせる学習活動			などを通じて、児童に情報モラルを確実に身に付けさせるようにすることが必要である。
その際	情報の収集、判断、処理、発信など情報を活用する各場面での情報モラルについて学習させることが重要である。			
また、	情報技術やサービスの変化、児童のインターネットの使い方の変化に伴い、学校や教師はその実態や影響に係る最新の情報の入手に努め、それに基づいた適切な指導に配慮することが必要である。			
併せて	児童の発達の段階に応じて、例えば、インターネット上に発信された情報は基本的には広く公開される可能性がある、どこかに記録が残る完全には消し去ることはできないといった、情報や情報技術の特性についての理解に基づく情報モラルを身に付けさせ、将来の新たな機器やサービス、あるいは危険の出現にも適切に対応できるようにすることが重要である。			
さらに	情報モラルに関する指導は、道徳科や特別活動のみで実施するものではなく、各教科等との連携や、さらに生徒指導との連携も図りながら実施することが重要である。			

1 研究の視点 (3) 情報モラル教育

情報モラルとは	情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度			であり、
具体的には	他者への影響を考え、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつこと	犯罪被害を含む危険の回避など情報を正しく安全に利用できること	コンピュータなどの情報機器の使用による健康との関わりを理解すること	などである。
また、	情報技術やサービスの変化、児童のインターネットの使い方の変化に伴い、学校や教師はその実態や影響に係る最新の情報の入手に努め、それに基づいた適切な指導に配慮することが必要である。			
併せて	児童の発達の段階に応じて、例えば、インターネット上に発信された情報は基本的には広く公開される可能性がある、どこかに記録が残り完全に消し去ることはできないといった、情報や情報技術の特性についての理解に基づく情報モラルを身に付けさせ、将来の新たな機器やサービス、あるいは危険の出現にも適切に対応できるようにすることが重要である。			
さらに	情報モラルに関する指導は、道徳科や特別活動のみで実施するものではなく、各教科等との連携や、さらに生徒指導との連携も図りながら実施することが重要である。			

情報モラルとは 情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度 であり

具体的には 他者への影響を考え、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつこと 犯罪被害を含む危険の回避など情報を正しく安全に利用できること コンピュータなどの情報機器の使用による健康との関わりを理解すること などである。

1 研究の視点 情報モラルの判断に必要な要素

日常モラル「心」

節度



思いやり・礼儀



正義・規範



思慮



「知」 情報技術の仕組み
の理解



機器やサービスの特性



心理的・身体的特性



インターネットの特性



十勝教育研究所 協力員研究

I 研究の概要

II 授業実践・検証 

III 研究の成果と課題

IV 実態交流

1 今年度の研究協力校



新得町立新得小学校
授業者 第6学年 西嶋健悟 教諭



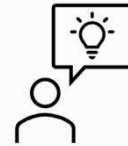
音更町立共栄中学校
授業者 第1学年 青木大地 教諭

2 研究の内容

(1) 日常モラルを生かした学習内容の工夫



事前アンケートの活用



情報技術の仕組みの理解

1/3 世界で誰かが君を見ている

1対1 (ラインなど)

- オンライン上でも相手は人間
- 誤解されるのを低くできる工夫あり (絵文字や言葉遣い)
- 困ったときは聞く、立ち止まる相談する

発信=全世界

- 誰もが見てい
- 個人情報注
- 消してもな
- 可能性あり
- その一言があなた自身の評価

こんなワナも...

- 直接言えないけどネットなら...
- (自分の顔が見えない安心感)
- 切り取られると...
- 本当はそうじゃないのに

インターネットの中でTPO

2 研究の内容

(2) 一人一人が意思決定する学習展開の工夫

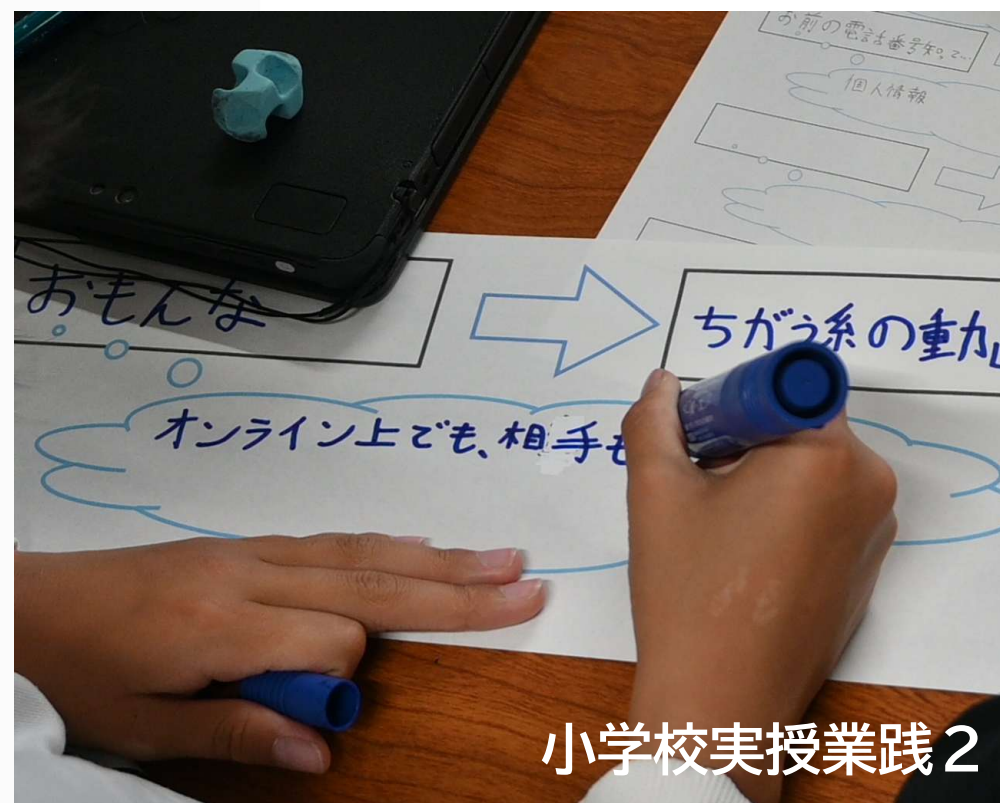
☞ 行動の選択肢の議論



💡 前向きな対処法の追求



4 小学校授業実践 行動の選択肢の議論におけるアクティビティ



この後ご覧いただきます

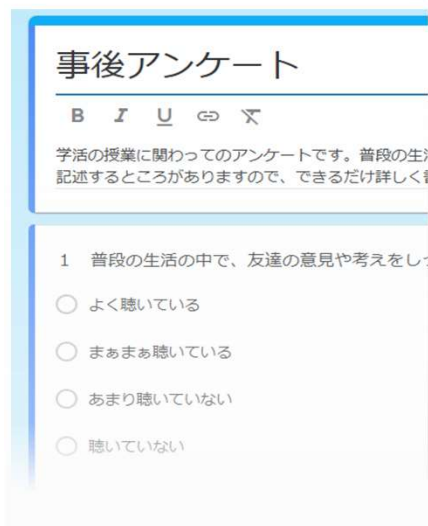
3 検証方法

記述・インタビュー



からの見取り

アンケート内容



からの見取り

子どもの姿



からの見取り

5 研究内容の検証

授業後のインタビューより

Q オンラインコミュニケーションが題材でしたが、学習してみてどうでしたか？

思っていたより気を付けなければいけないことがたくさんあるなと思いました。
ふだん友達と話すときも相手のことを考えて伝えたいです。



Q 今日学んだことをこれからの生活にどのように生かしていきたいですか？

インターネットだけではなく、ふだんの生活でも
相手に失礼にならないように言葉を伝えたり気を付けて話したりしたいです。



5 研究内容の検証

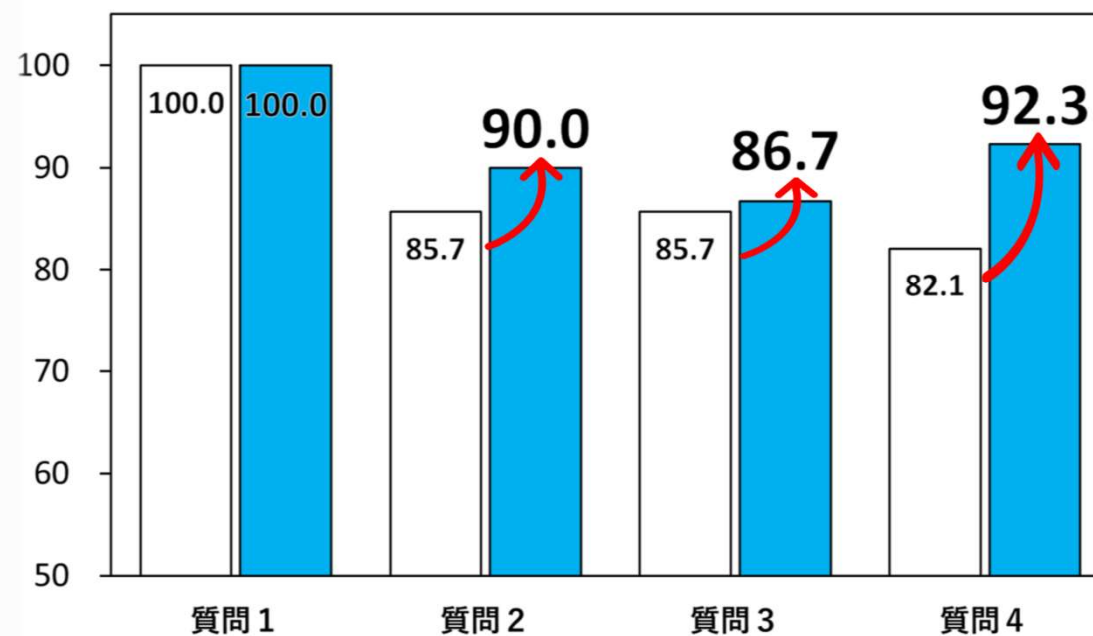
アンケート結果より



アンケート項目

- 1 普段の生活の中で、友達の意見や考えをしっかりと聴いている
- 2 普段の生活の中で、自分の意見や考えをしっかりと伝えている
- 3 普段の生活の中で、自分の行動を振り返っている
- 4 自分の行動を振り返って、次に生かしていますか。

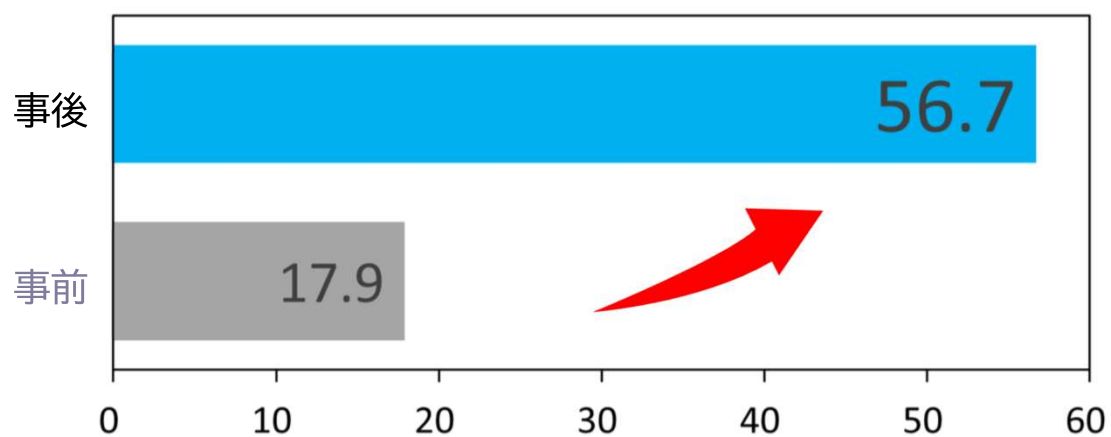
肯定的回答（当てはまる・よく当てはまる）の割合



5 研究内容の検証

アンケート結果・子どもの姿より

小学校第6学年質問1「普段の生活の中で、友達の意見や考えをしっかりと聴いている」に対して、「よく当てはまる」と回答した子どもの割合

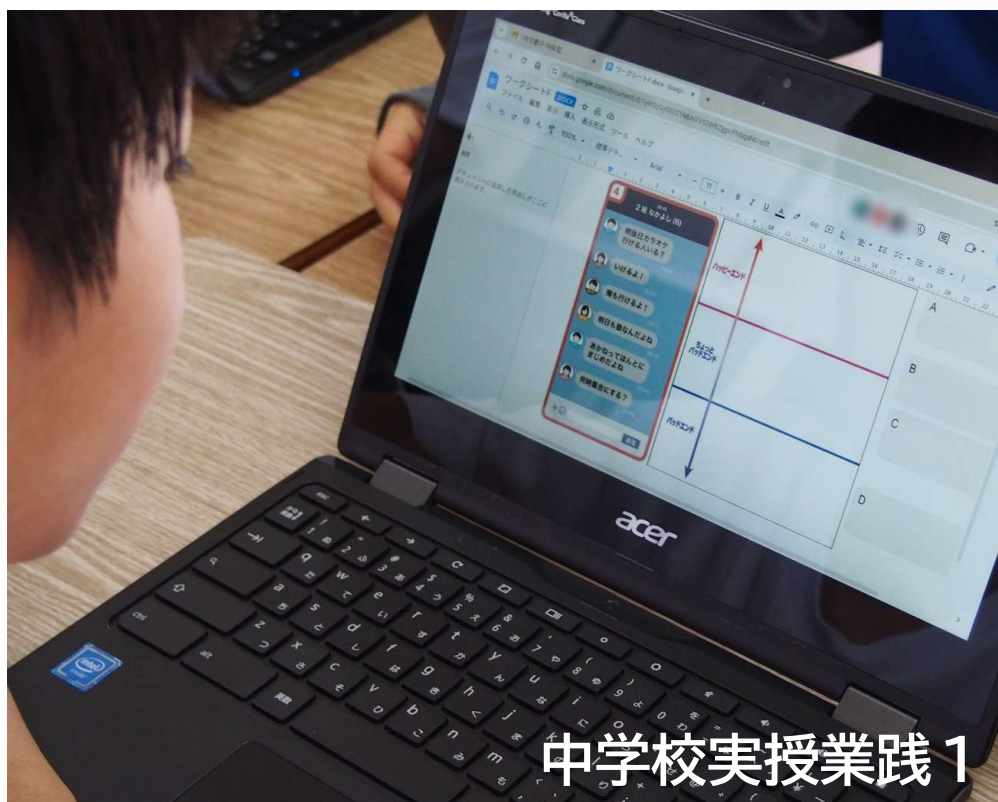


休み時間

行事の計画

ふだんの生活

6 中学校授業実践 行動の選択肢の議論におけるアクティビティ



この後ご覧いただきます

7 研究内容の検証

授業後のインタビューより

Q 今日学んだことをこれからの生活にどのように生かしていきたいですか？



ほかの人の発言が自分にとってはこんな感じ方をするとか、また別の人はこんな感じ方をするとか、**受け取り方がいろいろと違うことが分かったので、相手を想った返信をするのが大事だと思いました。**

自分は平気と思って使っている言葉もほかの人からしたら嫌かもしれないから、**ほかの人のことを考えないと自分の思った通りに伝わらないな**と思いました。



5 研究内容の検証

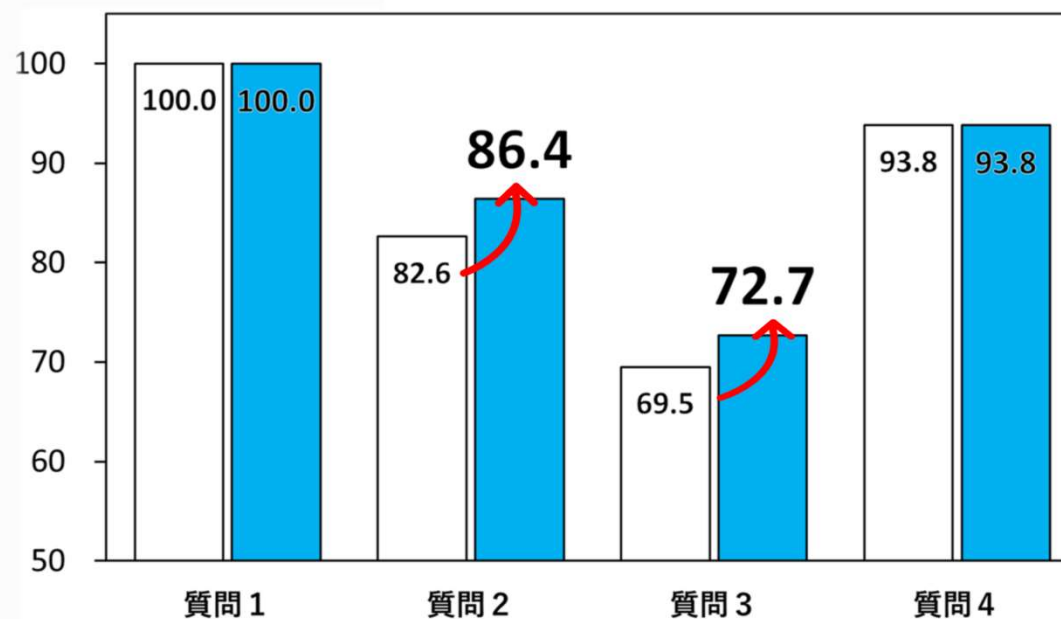
アンケート結果より



アンケート項目

- 1 普段の生活の中で、友達の意見や考えをしっかりと聴いている
- 2 普段の生活の中で、自分の意見や考えをしっかりと伝えている
- 3 普段の生活の中で、自分の行動を振り返っている
- 4 自分の行動を振り返って、次に生かしていますか。

肯定的回答（当てはまる・よく当てはまる）の割合



5 研究内容の検証 アンケートの理由記述・子どもの姿より



振り返ろうとは思わない
終わったことは終わったから、
振り返らない

事前



自分の行動を相手がどう感じて
いるかを振り返って次に生かしたい。
本当にその行動がよいかどうかを
考えて、インターネットを活用して
いきたい。

事後

気を付けるようになった
心掛けている

21人
/ 27人



十勝教育研究所 協力員研究

I 研究の概要

II 授業実践の紹介

III 研究の成果と課題 

IV 実態交流

3 研究1年次の成果

意思決定

様々な意見や情報を踏まえ、
自分だったらどのような行動
をするか意思決定をする学習
展開

日常へ生かす

他教科の学習や休み時間、
学校行事等で学習したこと
を意識して過ごす姿が
見られた。

事前アンケート

実態に合わせた題材の設定

3 研究1年次の課題



教科横断的・長期的視点

- ・他教科や学校行事等とのつながりをもつ。
- ・系統的な情報教育の計画が必要。

系統性のある指導の計画




社会全体への影響も

- ・コミュニケーションに関することが多い。
- ・「責任をもって行動する」という視点が弱い。

より広い視点で考える
題材の設定



十勝教育研究所 協力員研究

-
- I 研究の概要
 - II 授業実践の紹介
 - III 研究の成果と課題
 - IV 実態交流 



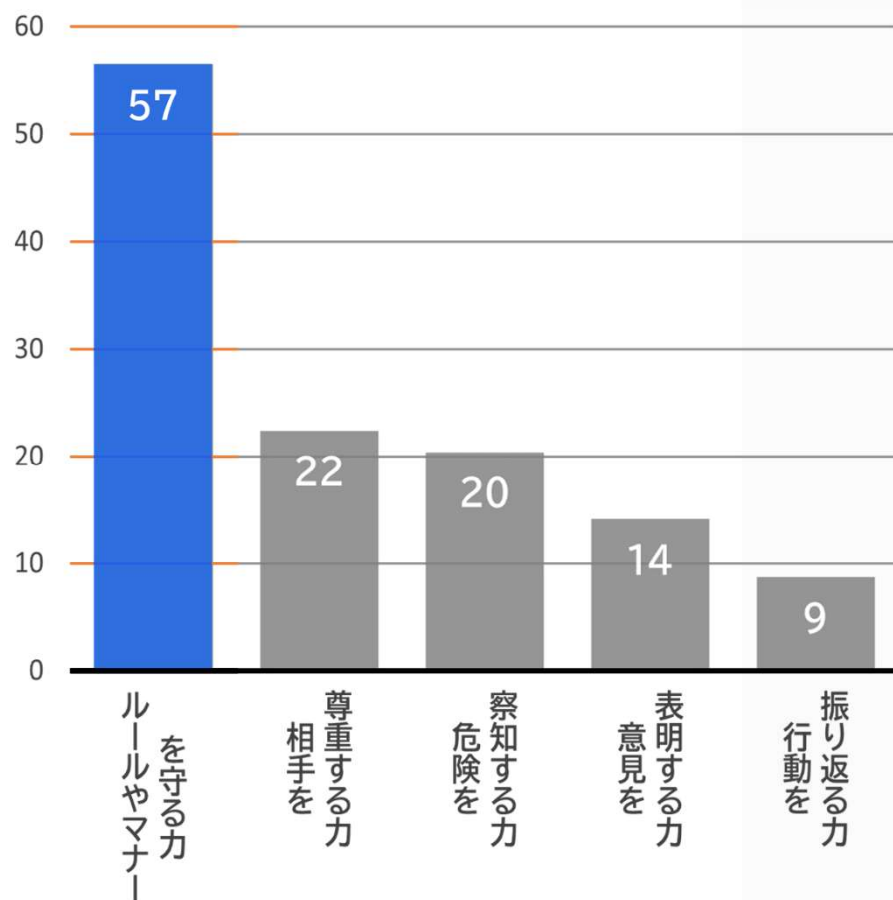
テーマ



「情報モラルの育成の工夫をどのように行っているか」

テーマ

各校における情報モラル教育について



設問『デジタル化が急速に進む中で、どのような力をつけることが必要だと感じているか（複数選択）』の情報モラルに関する回答を抽出

（十勝教育研究所発行 広報誌346号
「数字で見る十勝の教育」より）

協議グループは、改めて
参加者名簿でご確認ください！

